

最優秀校研究報告書

さいたまけんくまがやしりつかごはらしょうがっこう

学校名 **埼玉県熊谷市立籠原小学校**  校長名 **くろだ ともたか 黒田 智隆**

所在地 〒360-0841 埼玉県熊谷市新堀1143

TEL 048-532-4033
FAX 048-530-1249
URL www.kagohara-e.ed.jp

籠原小学校は、「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」で「学力日本一」を目指します！




「熊谷の子どもたちは、これができます！」 籠原小マスコット「かごりゅう」

1 研究主題

「『できる』『伸びる』『分かる』楽しさを味わわせる学習指導の創造」

—自主的・主体的な学び合いを通して
(励まし合い・認め合い・高め合い)—

2 研究の期間

平成28年度～令和元年度 4年間

3 研究の目的

本校では、平成28・29年度と、校内で体育の授業研究を行ってきた。「体育が楽しい」と答えた子供の割合は、93.1%と大変高い数値となっている。しかし「外遊びをする」と答えた子供の割合は、79.4%であった。考察を行った結果、本校の子供は、体育に対する苦手意識は低く、決められた種目や課題に対しては、よく取り組むことができるが、自分で運動を決めたり、友達と関わったりしようとする意識が低く、自主性や主体性に課題があることがわかった。さらに、平成29年度の新体力テストの結果を見ると、走力・投力に課題があった。以上のような実態から、本校では、「体育授業の充実」のもと、自主的・主体的に運動に取り組むことのできる「運動好きな子供たち」を育てることを目的として本研究を進めていくこととした。



4 研究の方法

(1) 研究組織

校長→教頭→研究推進委員会
→体育的諸活動部・環境整備部・調査統計部

(2) 研究の仮説

□平成28年度～29年度

仮説1 児童一人一人にとって「できる」「伸びる」「分かる」体育授業や運動量を十分に確保した体育授業を展開し、児童に運動の特性や魅力にふれさせることができれば、運動好きにすることができるだろう。

仮説2 プレイタイムや休み時間の運動遊びを通して体力の向上を図ったり、健康・安全に対する基本的な知識を身に付けたりできれば、進んで健康的な生活を送ろうとするだろう。

□平成30年度～令和元年度

仮説1 学び合い(励まし合い・認め合い・高め合い)を通して、「できる」「伸びる」「分かる」楽しさを味わわせれば、運動技能が高まり、運動好きな子供たちが育つだろう。

仮説2 自主的・主体的な体育的諸活動を工夫したり、子供たちに働きかけたりすれば、運動好きな子供たちが育つだろう。

(3) 体育授業の充実

ア 技のコツを意識した声かけ

3年生の「鉄棒運動」では、「脇がギュっとしまっているね!」「手首をグッと返してごらん!」などの子供たちを認め、技能を高めるボイスシャワーをたくさん浴びせた。技ができた時には、ハイタッチや胴上げで喜びをみんなで分かち合った。



イ めあてのめあせ方の工夫

2年生の「走の運動遊び」では、障害物の置き方の違い(種類、数、順序、間隔)を1時間ずつ明確にした。子供たちは意欲的に取り組みチームに合っためあてをもち励まし合いながら運動した。



ウ 主体的・対話的な学び合い 【目指す児童像】

低学年 誰とでも仲良くし**励まし合う**児童

中学年 友達の考えを聞き**認め合う**児童

高学年 仲間の意見を受け入れ**高め合う**児童

5年生の「タグラグビー」では、チームに合った攻め方や守り方を考える活動で「なぜ上手いのか」「なぜ上手いかなかったのか」根拠を明確にして振り返らせ、伝え合うことで思考力を高め合うことができた。また、6年生の保健「飲酒の害と健康」では、養護教諭との連携を図ることで主体的・対話的で深い学び合いができた。



(4) 体育的諸活動の工夫

ア 一人一人が「目標をもつ」新体力テスト
 イ 埼玉県作成の「体力プロフィールシート」に記載されている第1～第3までの目標値を意識できるように「体力のびのびバンド」を作成した。本校の課題である50m走では他クラスの走力が同程度の子供を競わせた。呼名し音楽をかけ運動会さながらの雰囲気を出した。負けて悔し涙を流す子供たちの本気の姿に感動した。



イ「ドキドキタイム・わくわくタイム」の実施
 毎週火曜日と水曜日の業間休みに、本校の課題である「投力」と「走力」を高める運動を実施した。運動が苦手な子供でも「楽しく」取り組めるように遊びの要素を残しつつ運動量を確保した。



ウ 姿勢教育の取組
 「日本ストレッチトレーナー学院」の指導により背骨を骨盤の上にしっかりと乗せ、腹筋を使って礼をする「ランバーアーチ」を取り入れよい姿勢を意識して授業に臨んでいる。



エ 発達段階に応じた目標設定 (なわとび)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
時間	1分	2分	3分	4分	5分	6分
二重	10回	20回	30回	40回	50回	60回

オ 徹底的にかまう指導

熊谷教育が目指すところの「子供たちを徹底的にかまう」を合言葉に、運動の苦手な子供たちに寄り添い、共に練習し、できた喜びを共有した。



(5) 体育環境の整備

- ア 足育コーナー
- イ わくわく体力アップアップコーナー
- ウ ラグビーワールドカップコーナー
- エ 教材・教具、掲示物の作成



(6) 家庭・地域との連携

- ア 体力向上だより「コツコツ」の毎月発行
- イ 基本的な生活習慣改善のためのHQCシート
- ウ 保護者への足育教室 (日本教育シューズ協議会)
- エ 深谷高校ラグビー部との交流による「籠ハカ」の作成と披露



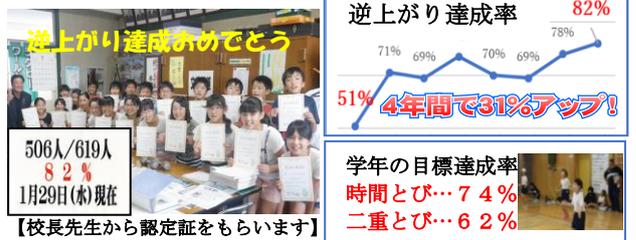
5 研究の成果

- ①意識の向上
 体育が楽しい…93.1%→97.4%
 外遊びをする…79.4%→92.9%
- ②新体力テストの結果の向上
 上位3ランク(A+B+C) 8項目中5項目以上個々の目標を達成

87%→92%

37%→74%

③運動技能の向上



校内なわとび大会での上位児童の記録

1年 Kさん 30分 (時間)	2年 Sさん 36分 (時間)
3年 Kさん 56分 (時間)	3年 Yさん 1000回 (あや)
4年 Mさん 338回 (二重)	5年 Iさん 72分 (時間)
5年 Sさん 71分 (時間)	5年 Fさん 772回 (二重)
5年 Iさん 681回 (二重)	5年 Yさん 491回 (二重)
5年 Nさん 2670回 (後交叉)	6年 Kさん 150回 (二重あや)

④自主的・主体的な運動 (季節ごとに起こるOOフォーム)



「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」を土台に様々な取組を行ったことで、子供たちの運動への意欲が向上した。運動技能の二極化に対し、苦手な子供へは、「とび箱教室」「ボール投げ教室」「逆上がり教室」などで一人一人の課題に応じた個別指導を行った。また、得意な子供へは、より高い目標設定を行い仲間と競わせた。このことにより、どちらの子供の体力も伸ばすことができた。

また、休み時間、放課後には自主的・主体的に運動や外遊びに取り組む子供たちが増えた。

6 研究の意義、発展性

運動技能や意欲を高めるためには、子供の実態を捉え、寄り添い、徹底的にかまう必要があることがわかった。今後も子供の体力や運動技能の向上はもちろん、『できる』『伸びる』『分かる』楽しさを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ子供たちを育て続けていきたい。